

第2章 地域の現況



第2章 地域の現況

2-1 地域現況の整理

(1) 滝沢市の概況

- ・滝沢市は、岩手県の西部にあり、盛岡広域振興圏の中心に位置している。東は、県庁所在地である盛岡市に接しており、西は雫石町、北は八幡平市に接している。
- ・市の西北部には岩手県最高峰である岩手山があり、東部には北上川が、南部には雫石川が市境を添うようにして流れている。
- ・市の東部では広域幹線軸として、高速道路の東北縦貫自動車道が縦断しており、それと並行するように国道282号が整備され、国道4号も一部区間整備されている。
- ・鉄道は、JR田沢湖線・IGRいわて銀河鉄道線が一部区間を運行している。また、東北新幹線の路線はあるが駅がないため、市内での乗降はできない。
- ・明治22年に滝沢村・鶺鴒村・大沢村・篠木村・大釜村の5村が合併し、現在と同規模の滝沢村が誕生した。平成12年には人口5万人を達成し人口日本一の村となり、平成26年に市制が施行され現在の滝沢市となった。

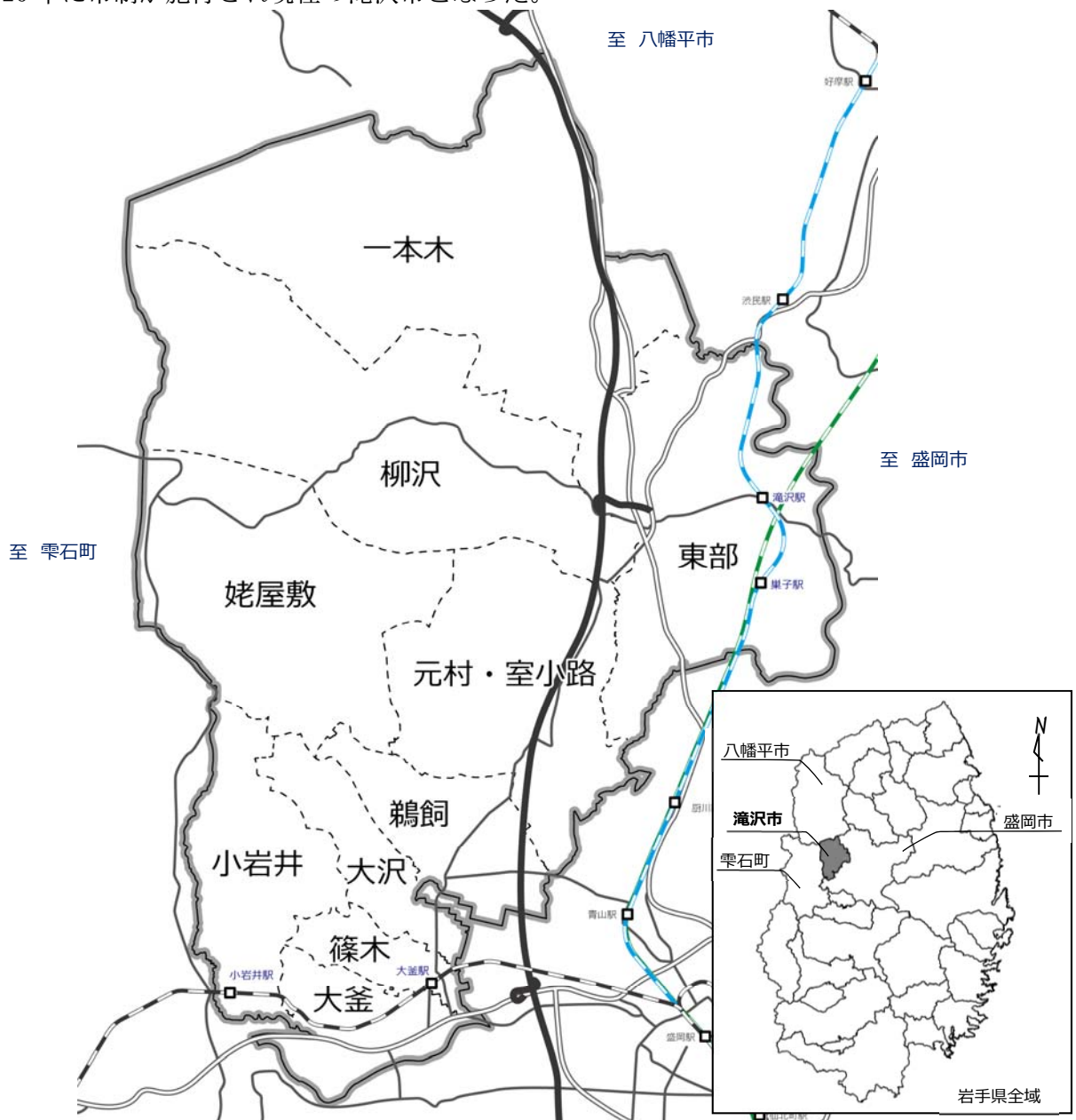
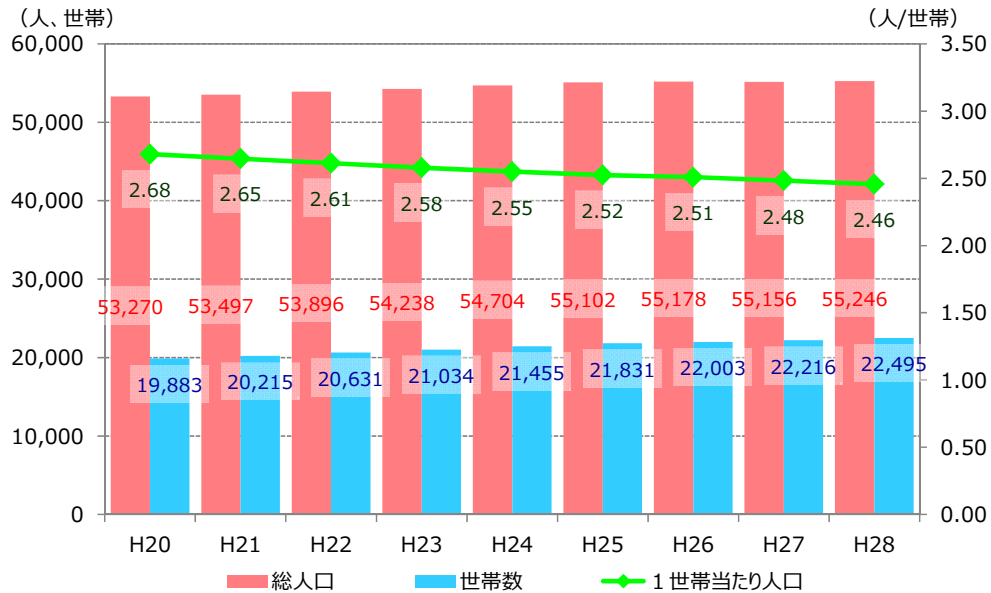


図2-1 滝沢市の位置図

(2) 人口・世帯

① 人口・世帯数の推移

- ・滝沢市の人口は、ほぼ横ばい状態となっているが、平成20年以降増加傾向にあり、平成28年には人口55,246人となっている。
- ・世帯数の推移は、平成20年以降増加傾向にある。
- ・1世帯当たりの人口の推移は、平成20年以降減少傾向にあり、平成28年には、2.46人／世帯となっている。

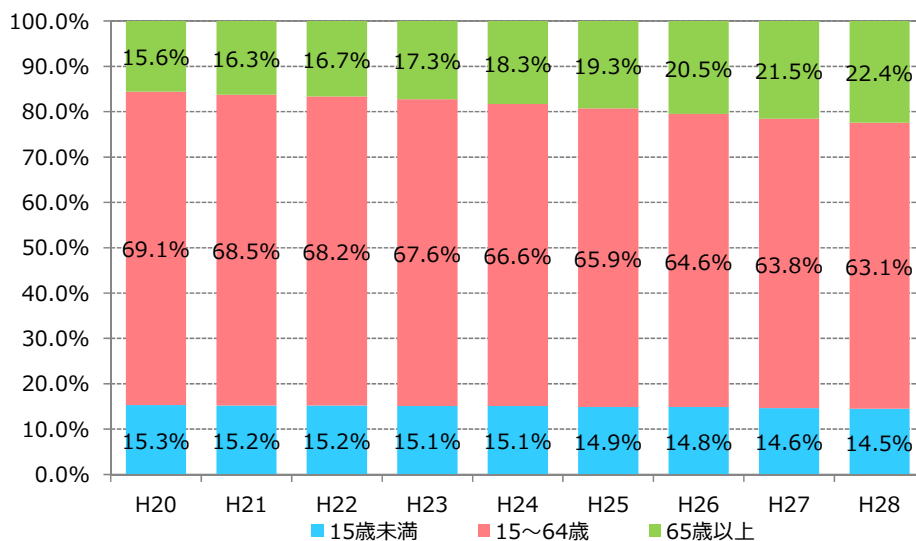


資料：滝沢市 HP「滝沢市の人口推移」(各年12月)

図2-2 人口の推移

② 世代別人口の推移

- ・平成28年の世代別人口の割合は、年少人口(15歳未満)が14.5%、生産年齢人口(15~64歳)が63.1%、老年人口(65歳以上)が22.4%となっている。
- ・世代別人口の推移をみると、老年人口が徐々に増加しており、平成28年には総人口の約2割を占めている。

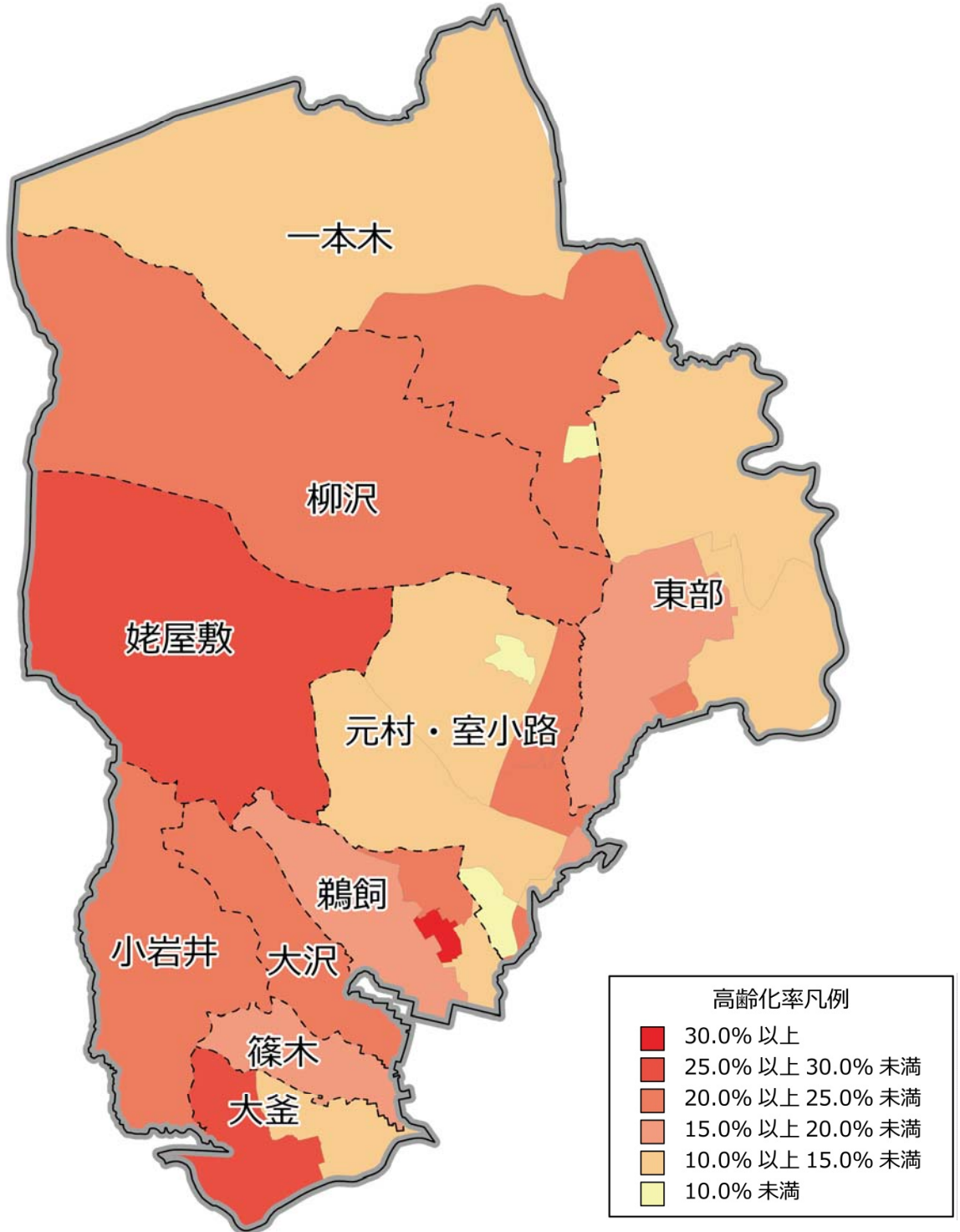


資料：滝沢市 HP「滝沢市の人口推移」(各年12月)

図2-3 年齢3区分別人口割合の推移

③ 高齢化率

- ・滝沢市内の高齢化の状況について、平成 22 年の高齢化率から見ると、市平均 15.6% を大きく超える 20.0%以上の地域が多くみられる。
- ・鶯飼地域の中心部では、高齢化率 30.0%以上の地域がみられた。



資料：H22 国勢調査

※高齢化率：区域内総人口に対して 65 歳以上の人口が占める割合

図 2-4 小地域別高齢化率（平成 22 年）

④ 地域別人口の推移

- ・地域別人口の推移は、平成 20 年以降に篠木地域・鶺鴒地域・元村・室小路地域では増加傾向がみられた。篠木地域は平成 22 年に大幅な減少がみられたが、平成 24 年以降は増加傾向となっている。平成 23 年以降には大釜地域・東部地域も増加傾向となっている。
- ・地域別人口は、元村・室小路地域が最も多く 19,055 人、次いで東部地域が 15,585 人となっており、市の東部に人口が集中している。

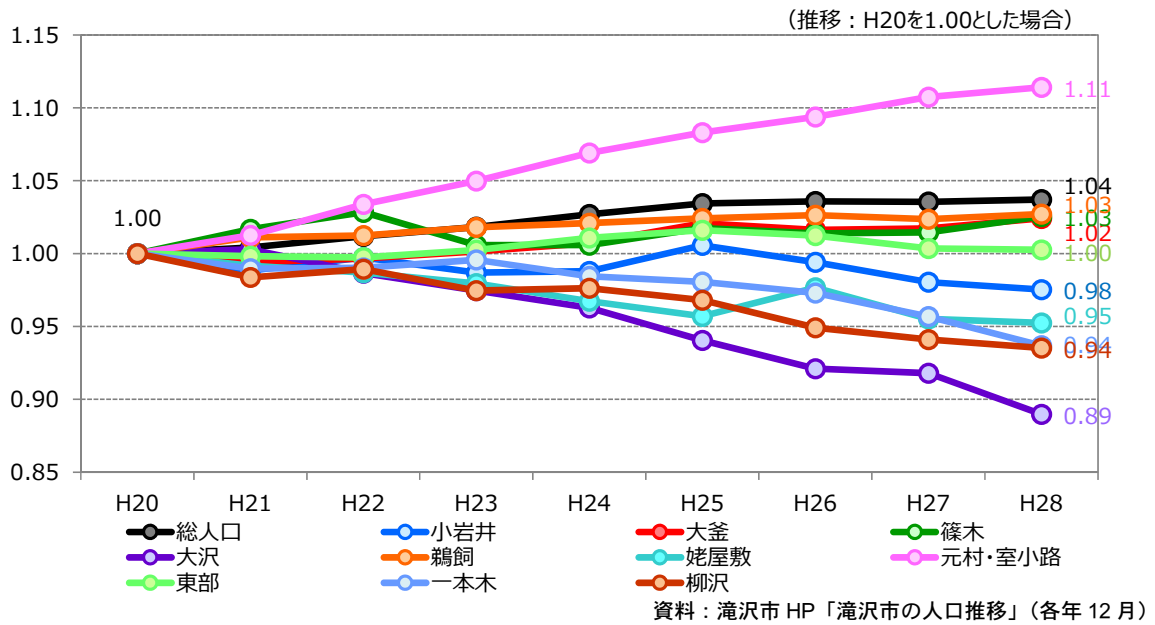


図 2-5 地域別人口の推移

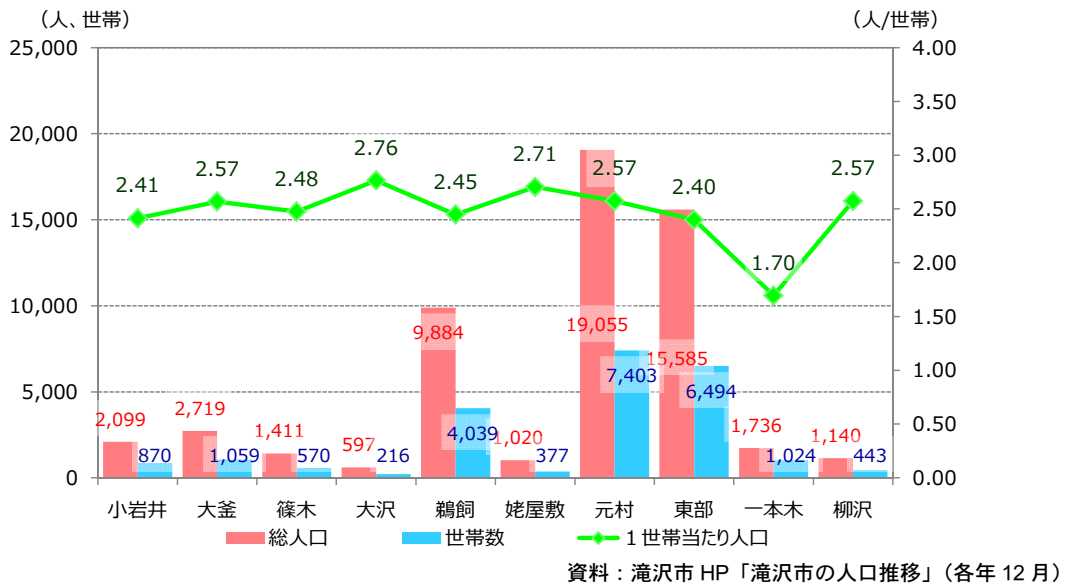
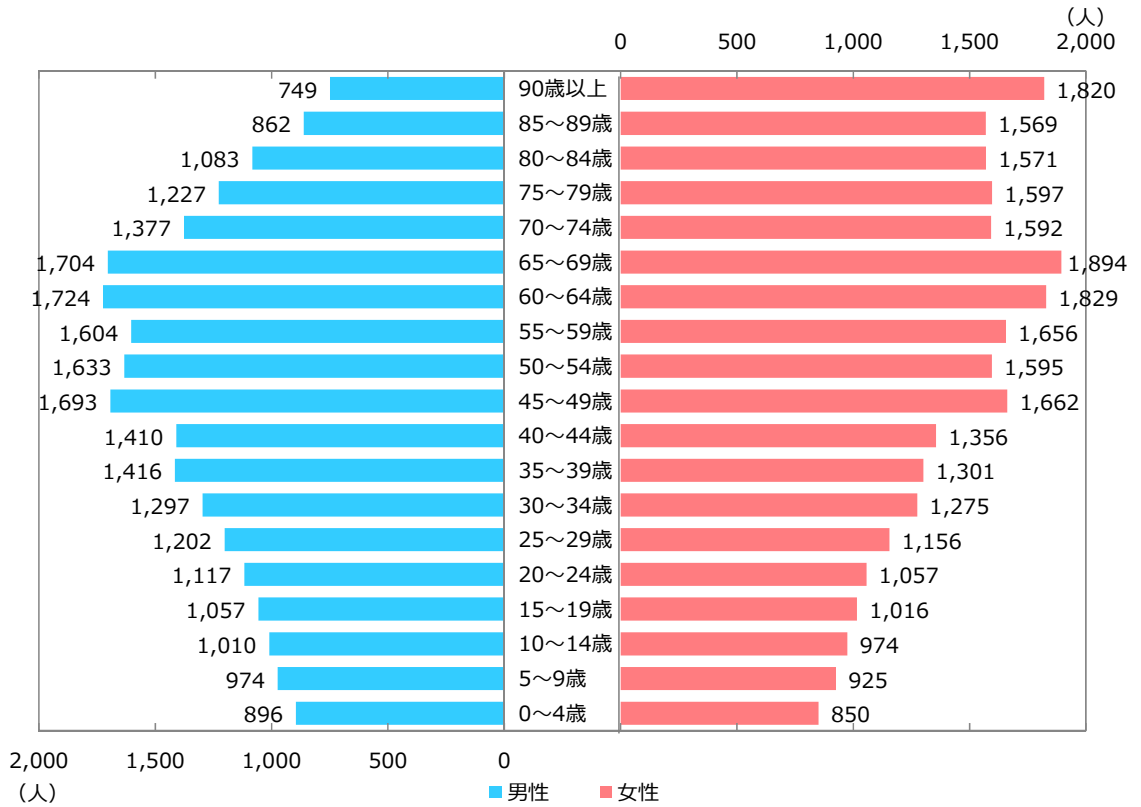


図 2-6 地域別の人口・世帯数 (平成 28 年)

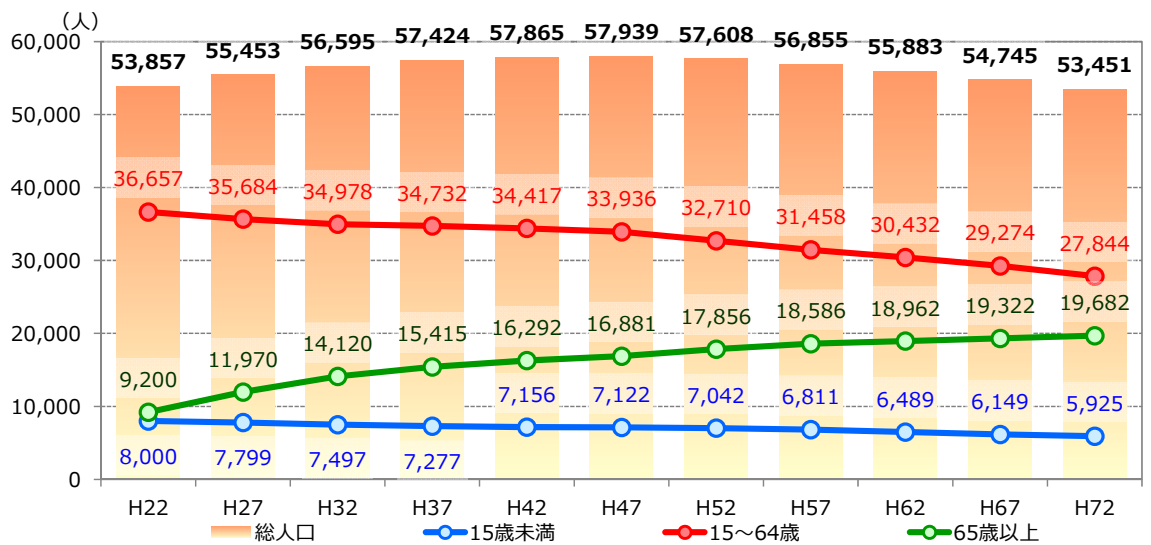
⑤ 将来人口

- ・ 国立社会保障・人口問題研究所が推計した、平成 52 年の年齢 5 歳区分の人口ピラミッドをみると、男性は 45～69 歳、女性は 45 歳以上が人口の中心となっており、より一層高齢者が急増し、高齢化問題が顕在化する可能性がある。
- ・ また、滝沢市人口ビジョンで市が独自で行った将来展望では、平成 52 年に総人口が 53,451 人になると予測している。
- ・ 人口の年齢別構成比をみると平成 52 年では 15 歳未満人口が 5,925 人、15～64 歳人口が 27,844 人、65 歳以上人口が 19,682 人となっている。



資料：国立社会保障・人口問題研究所（平成 25 年 3 月推計）

図 2 - 7 将来人口ピラミッド（平成 52 年）

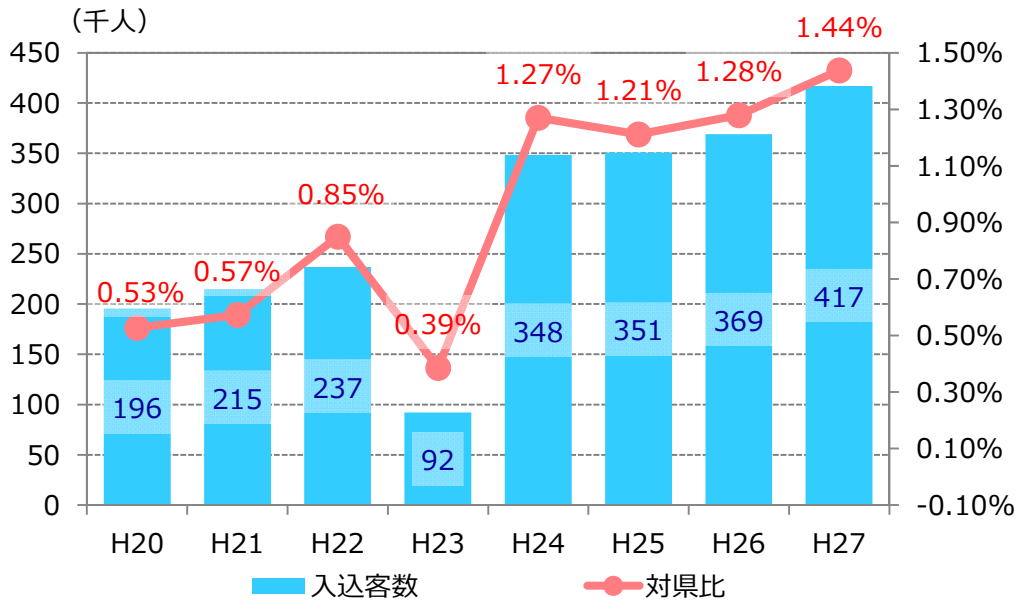


資料：滝沢市人口ビジョン「市独自推計（年齢 3 区分別人口）」

図 2 - 8 将来人口推計

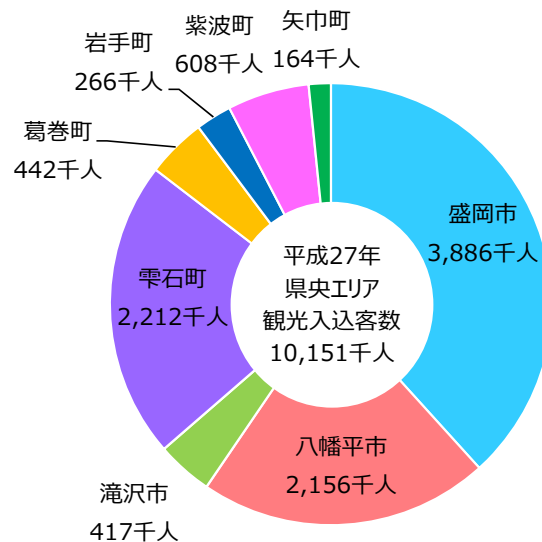
(3) 観光客入込状況

- ・観光入込客数の推移は、平成20年以降増加傾向にあったが、平成23年には震災後の観光自粛ムードの影響で大幅に減少した。
- ・しかし、翌年の平成24年には、震災前以上に回復し、増加傾向がみられる。
- ・平成27年には、観光入込客数が417千人であり、そのうち約6割は岩手産業文化センターアピオを訪れている。(当該拠点において不定期で開催されるイベント等への来訪者) また、残り4割は馬っこパーク岩手や岩手山、鞍掛山等の市内の観光拠点や毎年6月第2土曜日に開催されるチャグチャグ馬コまつり等のイベントを訪れている。
- ・広域振興圏の県央エリア内での観光入込客数は約10,151千人となっており、そのうち滝沢市が占める割合は約4%で、エリア内5番目の規模となっている。



資料：岩手県「観光統計概要」

図2-9 滝沢市の観光入込客数の推移

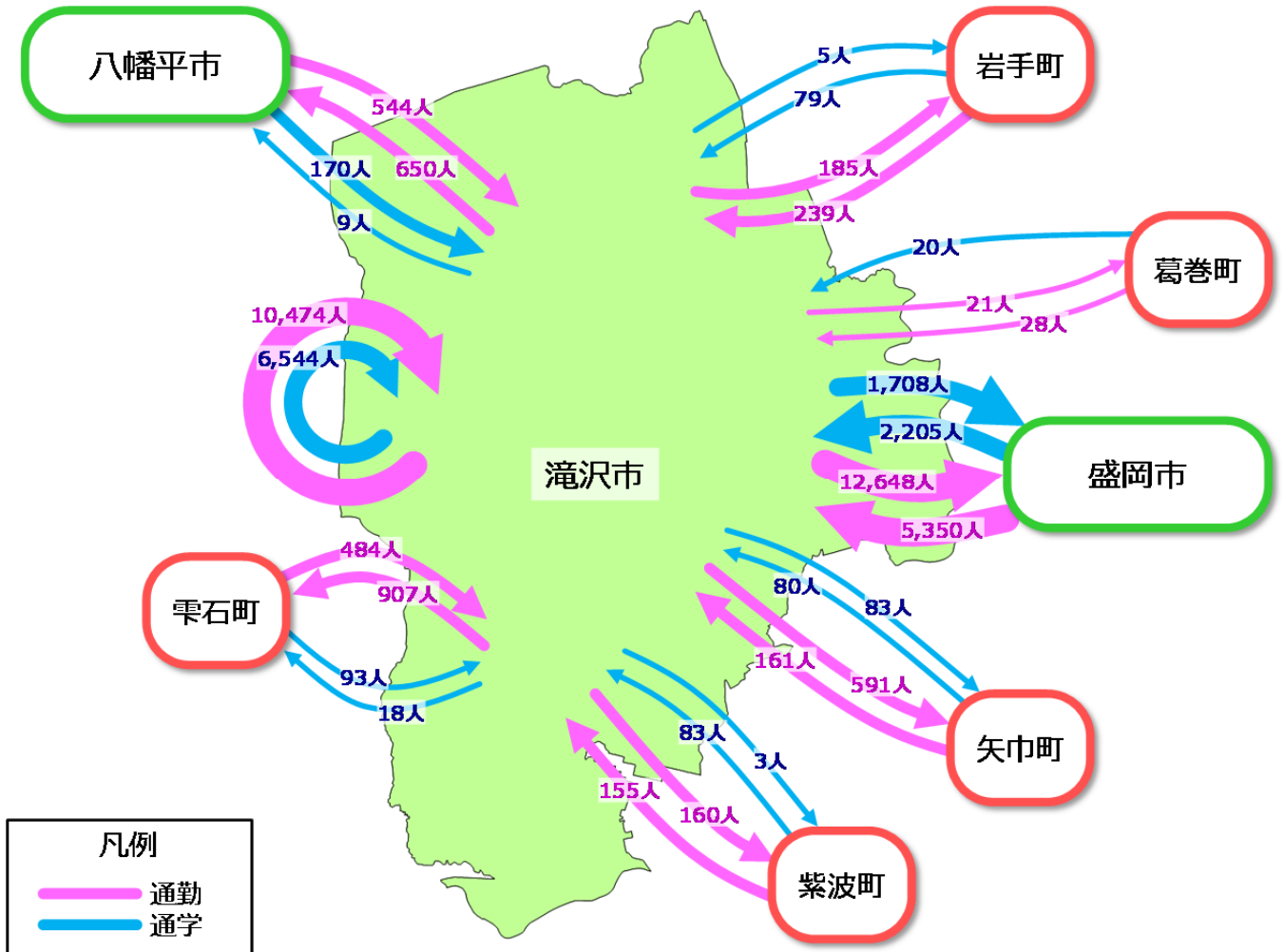


資料：岩手県「観光統計概要」

図2-10 県央エリア内の観光入込客数

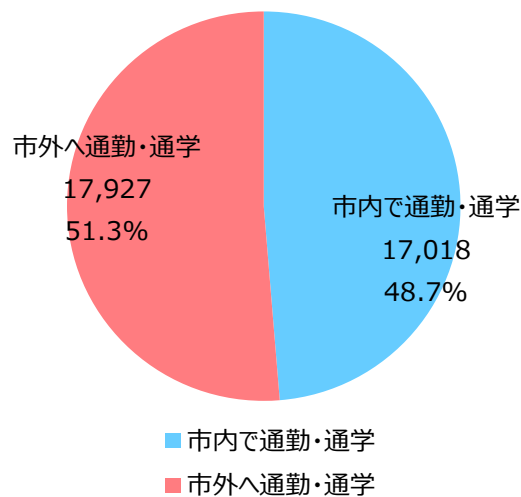
(4) 近隣市町村との移動実態（通勤・通学流動）

- ・主な通勤・通学流動は、通勤・通学ともに盛岡市との流入出が多くみられた。
- ・市内での移動は、通勤者が10,474人、通学者が6,544人となっている。
- ・移動の割合を見ると、約半数が市内での通勤・通学を行っていることがわかる。



資料：H22 国勢調査

図 2 - 1 1 主な通勤・通学流動状況



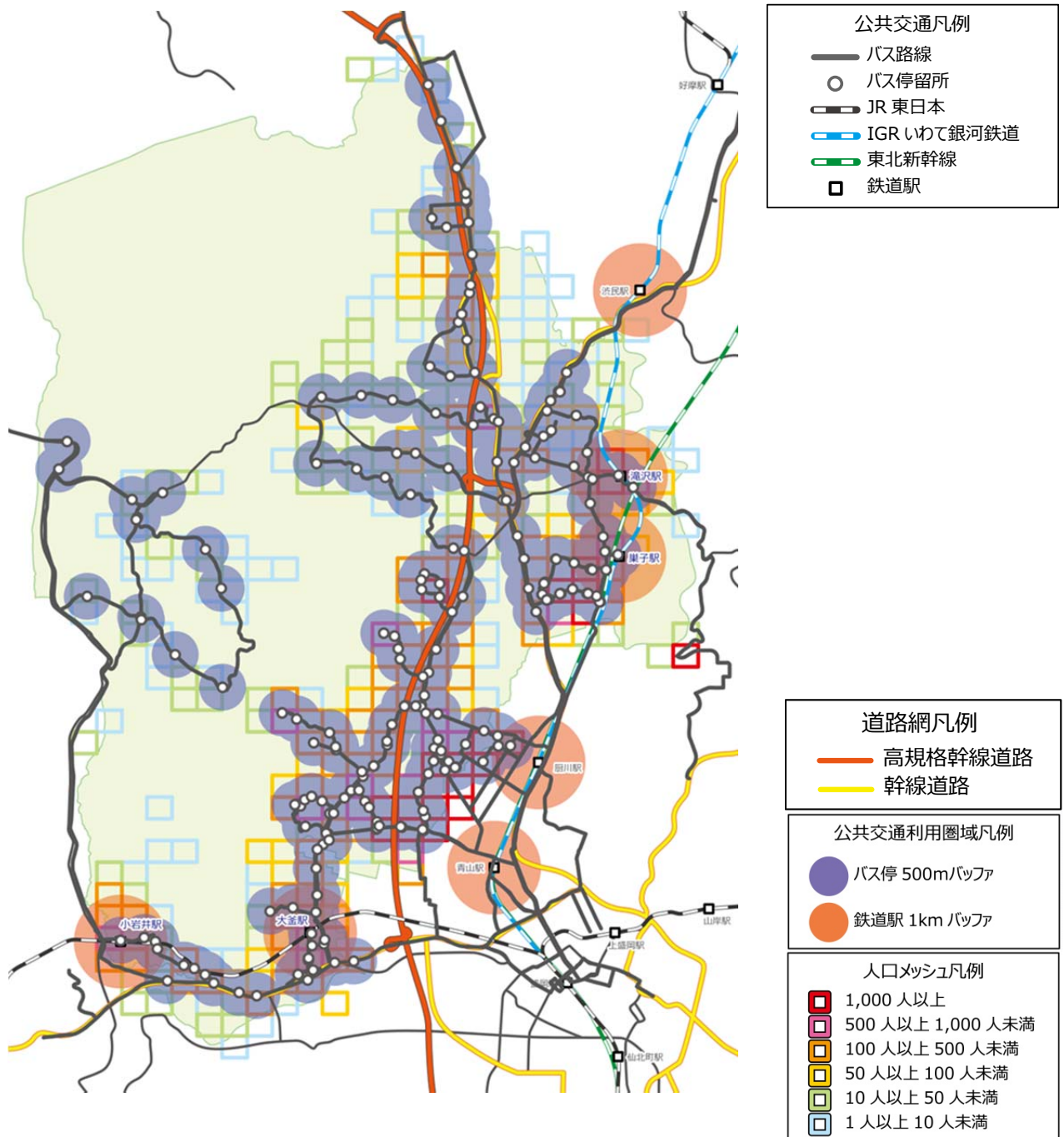
資料：H22 国勢調査

図 2 - 1 2 通勤・通学流動割合

2-2 滝沢市の公共交通

(1) 市内の道路・交通環境

- ・高規格幹線道路は東北縦貫自動車道があり、幹線道路として国道 282 号及び 4 号が市内を縦断しており、地域間移動の重要な幹線軸となっている。
- ・市の東部を縦断するように IGR いわて銀河鉄道線が、南部を横断する様に JR 田沢湖線が通っており、滝沢駅や菓子駅等を中心とした交通結節点において路線バス等の他の交通モードと接続している。
- ・人口の分布状況を見ると、人口が多く分布しているエリアは、バス路線のバス停圏（バス停から 500m）か、鉄道駅圏（鉄道駅から 1km）に概ね含まれている。



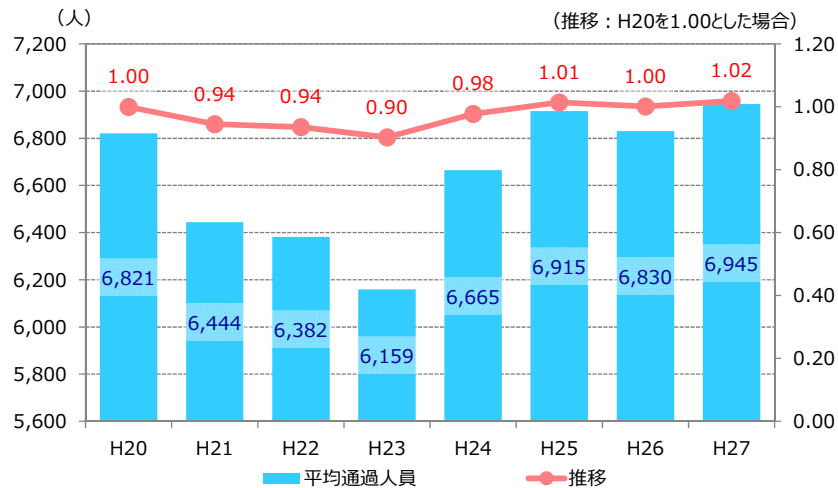
人口メッシュ資料：H22 国勢調査
バス停資料：滝沢市資料

図 2-13 道路・交通環境

(2) 地域公共交通の実態

① JR 田沢湖線

- ・ JR 田沢湖線は、盛岡駅（盛岡市）から大曲駅（秋田県大仙市）までを結ぶ鉄道路線である。滝沢市内を運行する鉄道の運行本数は、盛岡～雫石駅間で1～2時間に約1本となっている。
- ・ 利用者数は、平成20年以降減少傾向にあったが、平成24年に大幅に増加し、平成25年以降はほぼ横ばいとなっている。



資料：JR「JR路線別ご利用状況」

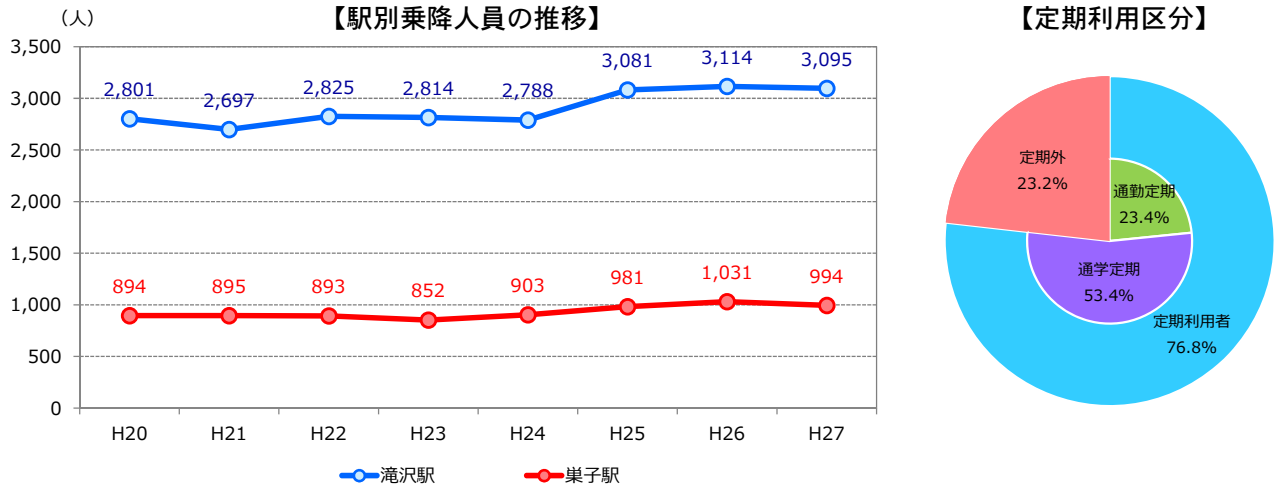
図2-14 JR 田沢湖線年度別平均通過人員の推移



図2-15 JR 田沢湖線路線図

② IGR いわて銀河鉄道線

- ・ IGR いわて銀河鉄道線は、盛岡駅から目時駅（青森県三戸町）までを結ぶ鉄道路線である。滝沢市内を運行する鉄道の運行本数は、厨川駅～渋民駅間で1時間に1本以上となっている。
- ・ 駅別利用者数の推移は、滝沢駅・巣子駅共に緩やかな増加傾向にあり、徐々に利用者を増やしている。
- ・ また、利用者のほとんどが定期利用者で、そのうちの約70%が通学利用となっている。



資料：IGR「駅別乗降人員（一日平均）」

図 2 - 1 6 駅別乗降人員の推移及び平成 27 年の定期利用区分



図 2 - 1 7 IGR いわて銀河鉄道線路線図

③ 民営バス

- ・滝沢市内で運行している路線バスは、「岩手県交通」「岩手県北自動車」「JRバス東北」の3事業者が運行主体となっており、路線バス全体の総運行便数は盛岡市に次いで岩手県内で2番目に多く運行している。
- ・盛岡市に隣接する本市の北東部から南東部は人口が多く集中的に分布しており、公共交通の利用者が多く存在しているため路線バスがカバーする一方、人口が広く点在する本市の北西部から南西部にかけては、一部路線が運行する程度であり、多くは路線バスがカバーしていないエリアとなっている。

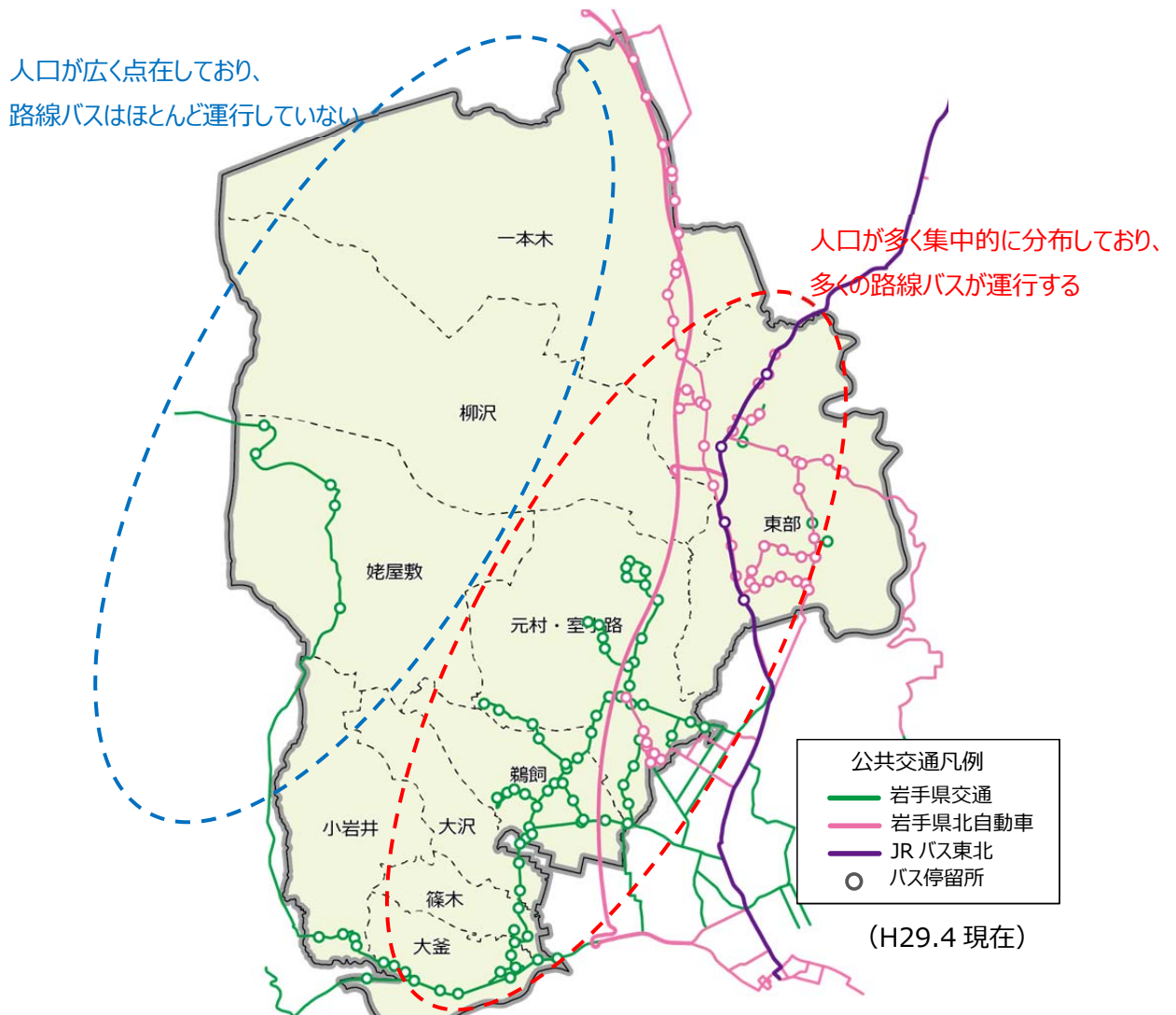
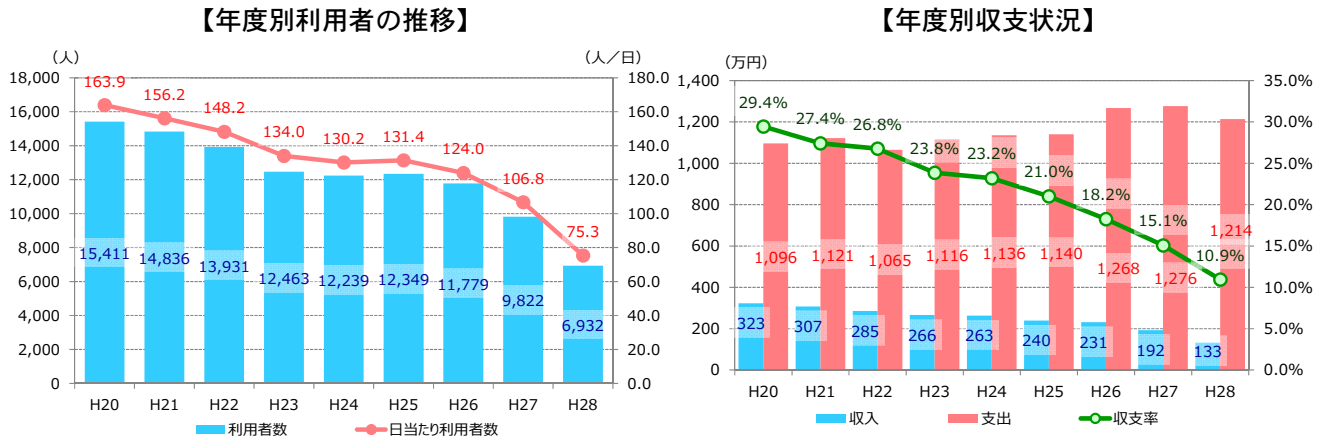


図 2-18 民営バス路線図

④ 福祉バス（市営バス）

- ・福祉バスは、誰でも利用可能な路線バスで、滝沢市から委託を受けた交通事業者によって運行されており、市内各地域より滝沢市役所までを運行している。
- ・毎週月・金曜日、1日2往復の運行となっており、市内を移動する手段の一つである。
- ・利用者数は、平成20年以降徐々に減少しており、特に平成28年には滝沢相の沢温泉「お山の湯」の閉館に伴い、当施設まで運行していた系統が廃止となったことの影響もあり、大きな減少幅となっている。
- ・また、年度別収支状況をみると年々支出が増加し、収入が減少しており、収支率が平成20年から約半分まで減少している。



資料：滝沢市資料

図2-19 福祉バス年度別推移

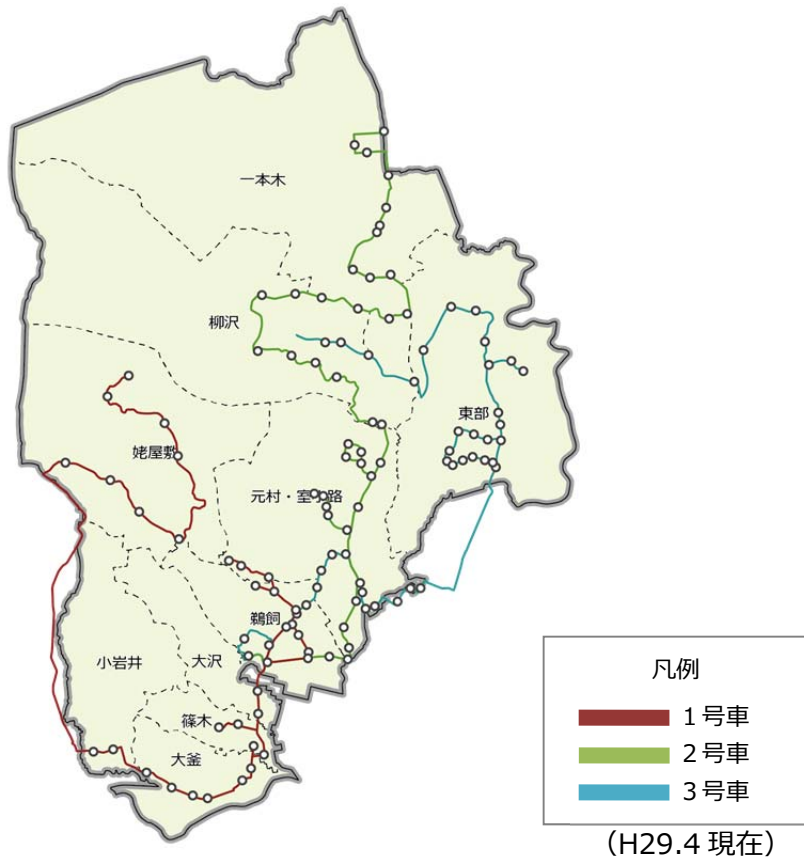


図2-20 福祉バス路線図

⑤ タクシー事業者

- ・滝沢市には、大釜地域・鶺鴒地域・東部地域にタクシー事業者4社が営業している。
- ・上記地域以外にはタクシー事業者がおらず、大釜地域・鶺鴒地域・東部地域または近隣市町村から送迎を行う形で対応しており、各事業者が市内各地域を分担しカバーしている。

表2-1 市内のタクシー事業者一覧

事業所名	所在地	地域
岩手中央タクシー株式会社滝沢営業所	滝沢市鶺鴒八人打 2-4	鶺鴒地域
有限会社滝沢交通	滝沢市巣子 1163-20	東部地域
有限会社みたけタクシー巣子営業所	滝沢市巣子 1178-6	東部地域
雫石タクシー有限会社大釜営業所	滝沢市大釜竹鼻 163-1	大釜地域

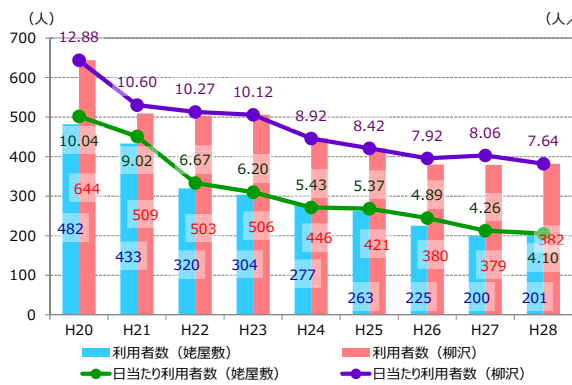


図2-21 タクシー事業所

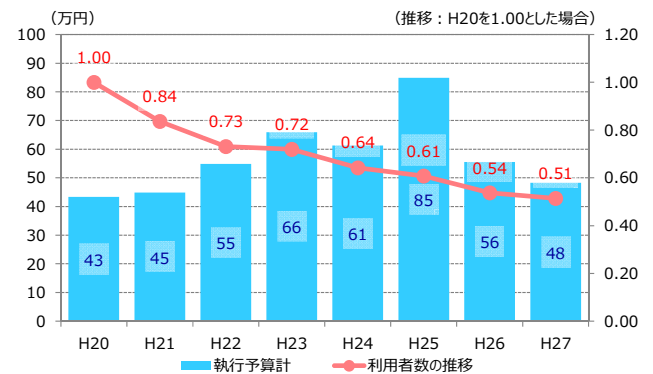
⑥ 患者輸送バス及び一般医療機関の送迎サービス

- ・医療機関への送迎バスは、滝沢市が運行している患者輸送バスと一般医療機関が運行している無料送迎バスがあり、両バスとも無料で乗車することができる。
- ・滝沢市営の患者輸送バスは、交通不便地域である姥屋敷地域及び柳沢地域における市民の通院時の移動手段として運行しており、利用する際は事前登録が必要となっている。
- ・一般医療機関においても独自で患者の送迎サービスを運行しており、通院を支える移動手段となっている。
- ・滝沢市営の患者輸送バスの利用者数は、両地域とも平成20年以降年々減少しており、平成28年には姥屋敷地域が201人、柳沢地域が382人となっている。
- ・また、年度別の予算執行状況をみると平成20年以降増加傾向であったが、平成26年以降減少傾向となっている。

【年度別利用者数の推移】



【年度別予算執行状況】



資料：滝沢市資料

図2-2-2 患者輸送バス路線図

2-3 市内の施設分布状況

- ・ 東部地域には大学や研究機関等が立地し、研究学園都市としての機能を有するほか、いわて産業文化センター「アピオ」では様々なイベント等が開催され、市内外から多くの来訪者が訪れる施設である。
- ・ 元村・室小路地域や鶉飼地域を中心に医療機関が多く立地しており、滝沢中央病院等の総合病院やそれに次ぐ規模の病院・クリニック等が立地するほか、市役所・ビッグルーフ滝沢等の主要な施設が立地し、本市の中心的な機能を有する。



図 2-23 滝沢市の主要施設位置図

